

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 17 回 松阪市政推進会議
2. 開 催 日 時	令和元年 7 月 17 日（水）午後 2 時～午後 4 時 15 分
3. 開 催 場 所	松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
4. 出 席 者 氏 名	出席委員：村林守委員、梅村光久委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、渡邊幸香委員 欠席委員：佐藤祐司委員、西岡裕子委員、米山哲司委員 事 務 局：竹上市長、山路副市長、永作副市長、家城企画振興部長、藤木経営企画課長、山路政策経営係長
5. 公開及び非公開	公開
6. 傍 聴 者 数	2 人（内、報道関係 2 社）
7. 担 当	松阪市企画振興部 経営企画課 TEL 0598-53-4319 FAX 0598-22-1377 e-mail kei.div@city.matsusaka.mie.jp

・ 事項、議事録は別紙のとおり

第 17 回 松阪市政推進会議 議事録

1. 日 時 令和元年 7 月 17 日（水） 午後 2 時～午後 4 時 15 分
 2. 場 所 松阪市役所 議会棟 第 3・4 委員会室
 3. 出席者 村林守委員、梅村光久委員、岡山慶子委員、酒井由美委員、高島信彦委員、中川昇委員、平岡直人委員、松浦信男委員、三井嬉子委員、村田吉優委員、吉田悦之委員、渡邊幸香委員
- ※欠席者 佐藤祐司委員、西岡裕子委員、米山哲司委員

〔事務局〕竹上市長、山路副市長、永作副市長、家城企画振興部長、藤木企画振興部経営企画課長、山路企画振興部経営企画課政策経営係長

1 市長あいさつ

あらためまして、皆さんこんにちは。大変お忙しいなか第 17 回松阪市政推進会議にご出席いただき誠にありがとうございます。

今日時代が本当に変わったなと思うことがあり、ひとつお話申し上げたいと思います。広報まつさかという冊子があり、36 ページから 40 ページぐらいの市の行政情報を月に 1 回全戸に配布しています。この広報まつさかが 10 か国語に対応できるカタログポケットという無料アプリをダウンロードしていただくと、広報まつさかが読めるようになります。松阪市がそのサイトに払う金額は年間 45 万円。ひと昔前にもし市の広報を 10 か国語対応で、ここにいる外国人の方にサービスを行うとすればたぶん数億円かかる。今や無料のアプリがあって、そのサイトに接続すると言語翻訳や音声サービスをしてくれる。IoT 社会という言葉になるが、すごいサービスがほとんど費用もかからず出来てしまう。世の中は私が思っているよりもっと早い速度で変わっていく。この 7 月から超高齢社会対策検討委員会を作るのと、地域の高齢者の皆さま方がどんなところに困っているかも含めて地域懇談会をさせていただいている。技術の進歩による自動運転が一般的になれば、通院や買い物で困っているのを技術の進歩が解消してくれるかもしれない。そういう時代が目の前にきているのかと思いながら新技術に畏敬の念を持っている。これを上手に活用しながらお金をかけずに、いち早く取り入れながら実現をしていければと思う。

今日は 4 年間の振り返りということで、皆さま方からさまざまな関連なご意見をいただきますようお願いいたします。

※松阪市政推進会議規則第 5 条により、会長が会議の進行を行う。

○ 会議の公開・非公開の決定

会長)

改めまして皆さまこんにちは。

前回に引き続き4年間の行財政運営について振り返るということで、忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。

例によって会議の公開・非公開を決定する必要があると思いますが、前回公開でやっておりますので今回も公開ということによろしいでしょうか。

(異議なし)

会長)

では、公開で進めさせていただきたいと思います。

2 協議事項

1) 4年間の行財政運営について

会長)

それでは、4年間の行財政運営についてということで、前回もご説明いただきましたが、資料は前回と同じものですか。

市長)

前回と同じ資料ですが、いらっしゃらなかった方もみえますので、簡単に説明させていただきます。

(市長より資料の説明)

資料1 竹上市政の4年間を振り返る

会長)

ありがとうございます。それでは、皆さまからのご意見を承りたいと思います。

委員)

この会議のなかで発言したことを取り上げていただいたことありますが、今までされたたくさんの方が一般市民に伝わっていない。それを知らない市民の方がたくさんみえるのが残念。広報というか知っていただくのが大事なポイントではないか。

市民目線でわかりやすく、伝わりやすいようにアピールすることで、市民も目を向けて、参加していく気持ちが生まれるのではないか。広報活動をうまくされてはどうか。もったいない気がする。

委員)

この4年間という短い期間で相当いろいろなことをやっていたらいい。特におくやみコーナー、ゲスタンプの誘致は非常に顕著な事例だと思う。

産業のところで言われていたが、企業誘致より地場産業を振興するという方が本筋であるというのは全く賛成です。

同時に本社移転。本社移転は言うほど簡単ではないので、本社でなくても支店とか工場とか特定の部門を引っ張ってくるだけでも大きい。市から言えば法人市民税が入りますし、若い人が帰ってくる場所の選択肢が増える。本社移転だけでなく広げてやっていただいても良いのではないかと思います。

市長)

本社移転は、この4年間で3社移転していただいた。

一番有名な会社はヴァーレジャパンで、東京から移転していただいた。松阪にニッケルの製造拠点があります。あと2社は、パワーサプライテクノロジーという電気自動車の電源を作っている会社。あとは県内から本社を移転してもらった会社が1社です。

それと、ゲスタンプもそうですが、もう1社新規で松阪市内に進出していただいた企業があります。

全部で13協定締結し、総投資230億円、新規雇用480人という成果になりました。

委員)

本社移転すると人がついてくるのか。全部持ってきたのはすごいですね。

会長)

工場を持ってくると管理部門がくる。市へのインパクトは大きいですか。

委員)

松阪市に本社があるというのは、インパクトが大きいです。

委員)

ハンズオン事業ですが、今は「かすてら」さんですか。

市長)

今年選ばれたのが仏壇屋さんで「かすてら」をしている。

変わった事業で、お寺の空いているところ利用して貸しスペースを作るというもの。

普段使っていない大空間を利用してお寺を貸す。

新たなサービス業で、そういう展開をしているところを支援している。

委員)

スペースを貸すというのは、すごいアイデアだと思うが、例えば、どういう風に使われていたり計画が出ているのか。

市長)

書道教室や書道家を呼んできてのパフォーマンスとかに使われています。
教室かイベントが多くなるのではないかと思う。

委員)

東京のお寺さんでは書道教室か生花教室。

なるべく時間のある時は、松阪駅からいろいろな道を歩いてくる。さみしい道やシャッターが下りているところが多いなかで、お寺さんはキレイで手入れが行き届いている。子どもたちが集まる場所とか、昔の寺子屋や預かり保育でも良いのではないか。

委員)

本社の移転はどういうマッチングであたるのか。

市長)

基本はここに製造拠点があるところに声をかけた。工場があって本社が東京にあるところ。こちらに本社を移してもらうことはできないかと言ったら、あっさり移すことができると言っていた。私も驚きました。

もう1社は3年くらいかかった。県とタイアップして、本社移転で補助金がでるという県の制度を利用していただき、本社を移転していただいた。

委員)

ハンズオンはもっとたくさんしたらどうか。1社に限らず、5社、10社ぐらい。

松阪市の特徴になるし、豪商のまちとして豪商のたまごを増やしたり、既存産業を更に発展させることができる。松阪市のメイン事業にして、市役所の職員も相当ここにウエイトをかければ、結果的に産業が活性化し、地場産業が強くなり、外へ出ていった人たちも戻ってくることができる。一石三鳥ぐらいの効果になる。ぜひ増やしてほしい。

市長)

今年で3年目で、1年目、2年目でそれなりの効果がありました。ただ、担当職員は1社やるだけでヘトヘトです。もうちょっといける自信がいたら増やしていきたいと思う。

委員)

ノウハウが身に付きます。職員がビジネスをわかってきます。ビジネスがわかっていることが松阪市の強みになる。

委員)

ハンズオンですが、第2回の松豚さんは素人が見ても急成長した。いろいろなアイデア商品を出されたり、社長の顔つきが自信に満ち溢れていた。

今回貸寺さんがすごく珍しいハンズオンで注目されているということですが、どう成長したかという過程を記録していただきたい。記録がビジネスの役に立つものになるなら、市で販売しても良いのではないか。それが松阪市の情報ツールになって県内へアピールできるものになるのではないか。

委員)

松阪市はこんなことをしてきたというものを、簡単に市のサイトで見ることができるようになると、もっと市民の興味や参加が高まるのではないか。

委員)

おくやみ窓口はもっとアピールしたらどうか。

委員)

市民が参加しやすくなることをアピールする。

行政のホームページは面白くない。見たいと思ったことがない。

この4年間のさまざまな新しい活動を、市民だけでなく周辺市町にも広げてほしい。

会長)

市役所の広報では限界があるのではないか。委託したら良いというものではない。

市民広報委員のようなものを作ったらどうか。市民が松阪市役所でこのようなサービスをしていると聞いたら、市民みんなでも共有したいと出すような仕組みを作ってはどうか。市民力があるのだから、広報も市民が作ったら面白いものができるのではないか。

委員)

自分の子どもたちの情報の収集と発信の仕方を鑑みて、自分も発信を変えないといけないと思うところがある。彼らの世代はインスタで情報交換をしている。

私の学校では30年以上前からオーストラリアの女子高と国際交流をしているが、松阪市で過ごす時間が急に長くなった。広島、東京、京都で1週間過ごすのをやめて、去年から松阪で2週間過ごすことになった。それは松阪にきたオーストラリアの女子高の子たち

のインスタを見て、オーストラリアの大都市で育った同年代の子どもたちが、松阪が良いということになった。インスタからの個人の発信力の広がりすごさは皆さんご承知のとおりだと思う。私たちがまだ見ないような発信力を持つ世代の子どもたちは、あらゆるところにどんどん広がる可能性がある。情報発信は行政だけでなく、個人の松阪のあらゆる世代から発信するといっきに走る。火付け役がいると良い。高校生が企画してみてもどうかと投げかけると面白いのではないか。政策立案でなく、このテーマならどう発信するか良い意味で面白い。

委員)

高校生が違うサイトで社会貢献や、社会を知るひとつのプログラムとしてやってはどうか。若い人たちがこのまちを好きになり希望をもてることを大事にしていかないと、松阪というブランドがもったいない気がする。

委員)

その役割をするのが住民協議会の役割ではないかと思う。あと、高校生の子どもたちに力を借りながら、各住民協議会も松阪を元気にするために予算取りをするところもある。なかなか関わりをもっていくのが難しい。いろいろな方に発信するのも、発信する相手に合わせた気配りをしながら発信していかないといけないと感じた。

市長)

最近の話題で、瞬く間に世間に広がると思った話があります。刀剣乱舞という映画です。そのロケ地が松阪のお城でした。いまだにそれが好きな子にとっては聖地みたいなもの。歴史民俗資料館に刀剣乱舞の資料があり、始まって以来の入場者数になりました。

インスタ、松阪市の公式サイトはほぼ毎日更新し発信している。結構良い写真も載せているが全国的に見てもらっているわけではない。

私がやっていて結構楽しいのが、松阪高校と松阪市がジョイントして、30秒のCMを松阪高校の生徒が1チーム3~6人の規模で撮影班を作ってコンテストをやります。このすべての作品を行政チャンネルで流しているが、市民の皆さんにはなかなか浸透していない。しかしやっていて楽しいことがいづれ広がっていくのではないかと考えている。

真面目な話で今年度行政アプリを取組ます。小学校、幼稚園、保育園の保護者の方をまわりその時に言われたのが、広報のような厚いものは読んでいる時間がない。子育て情報だけが欲しい。そこで考えたのが行政アプリで、アプリを登録してもらいプッシュ通知で欲しい情報だけ流すというものを作る予定です。相当ニーズにはお応えできると思う。

松阪市が発信するのも大事だけれど、市民が欲しい情報をきちんと的確に市民に提供できる体制があるようでない。相変わらず紙媒体の広報が中心。松阪市の情報はどこで知りますかというアンケートをとると、市民の7割が広報からという結果だった。それ以外の

ところから情報を得るのはほとんどないような状態。これでは若い人が松阪市の情報を知らなくて当たり前だと感じた。

高校生が松阪市の広報委員となって、自分のまちを発信するというのはすごく良いと思います。

委員)

子どもたちが30年後、自分たちのまちが本当にあるのかということを実際に考えているまちはある。その子たちに対する環境がない気がする。

30年後子どもたちがどういうまちにしたいのか発表する場でも結構ですし、30年後も住んでいられるのかという不安を解消できるように、自分たちの考えを集めた方が良いのではないかと。子どもたちが主役のまちづくりを。

市長)

昨年、駅西開発というテーマで市民委員を募りました。10代、20代の参加が本当に多かった。みんなが集える場所、オープンスペース、くつろげる場所が欲しいという意見が若い世代を中心にあった。駅西開発はハードもの話で、そこに10代、20代の若い世代がやってくること自体驚きでした。集め方、テーマの設定の仕方、どんどん来てくれる可能性があるのではないかと思った。

委員)

2019年4月、高校1年生から学習指導要領の内容がかわり、1年間かけて物事をじっくり考える探求の時間が設定された。その探求の時間は公私を問わず初めてだと思いますが、もしかしたら松阪市のテーマを選んでいるクラスもあるかもしれない。無ければお手伝いしますといえば、エビデンスはこちらできちんとやりましようとしてやっていけば、自分の地域の市のあり方について1年間かけて探求できるかもしれない。

委員)

2019年3月から学習指導要領にサステナビリティが入ったが、先生たちはやり方がわからない。助け手はたくさんいるので、子どもたちのところから始めるのがまちづくりにとって必要。今官民一体でまちをつくるとなっているので、教育機関、行政、NPO、企業も一緒になって考えていく。是非企業にも参画して欲しい。

委員)

松阪商業は学校から地域との場をとってもらっている。相可高校は地域が違うが、生徒会の役員がこの地域の方と一緒にとってもらっている。これから皆さんの力を借りながらと思っている。

会長)

“かすてら”の話が出ていましたが、お寺は円居の場ということで使われていたと思うが、お寺のまちづくりでヒントになるようなものはないですか。円居の伝統は松阪のすばらしい資産だとお聞きした。

委員)

お寺自体檀家数が減ってきているのでなかなか難しい。市内のまちなかの大きなお寺なら自由度も高いが檀家の関係もある。幸い松阪には大きなお寺もいくつかあり、かすてらさん以外にも若い住職が増えている。市内に大きなスペースを持っているところもあるので、若い人が好きなように集まれる場を用意してあげるのが良いかと思う。

それとこの4年間で観光と文化を一緒にしたのはタイミングとして良かったと思う。

30年待たずに日本だけでなく世界は大きく変わっていくので、20年後ぐらいの市長の夢を積極的に語っていただくのが良い。子どもたちが安心して夢を語れるように。

委員)

皆さんがおっしゃっているほど、市民の方は市政に関心がないわけではないと思う。偉人展をして、昨年子どもたちに偉人に対して俳句を作ってもらったが、いいところ200~300ぐらいかと思っていたら2,300俳句を出してもらった。今回は子どもサミットという名前で、8人の偉人を子どもたちに演じてもらった。小学生の子ども参加はないかと思っていたが手をあげていただき、16人の子どもたちがサミットに来てもらった。子どもがサミットを開催すると大人も来てくれるので相乗効果があり、松阪は8人の偉人を輩出していることも含めて発信できた。

お年寄りや子どもも、やり方次第でこちらを見てくれているということを伝えたい。

市長がまわっている地域懇談会で、こうしてもらったらどうかといった提案もあると思うが、参加されている方の気持ちをお聞きしたい。

市長)

今まわらせていただいているのが、超高齢社会対策検討委員会を立ち上げるので、3つの大きなテーマでご意見をいただいている。

1つは地域包括ケアで、医療と介護と地域の3つが協働して高齢社会を乗り切っていくシステム。

もう1つが地域公共交通です。高齢者の事故が連日報道されていて、いわゆる自主返納の話も現実的におこっていて、なぜか三重県が一番返納率が高い。三重県の中でも松阪市は返納率が高いと言われています。それはたぶん無理して乗っておられた方が非常に多かったということかもわかりません。市域が広く細長いですから、車に乗らないと移動できないというのものもあるかもしれない。実際路線ごとにバス停から半径200mごとの円をかいた地図を作った。ほとんどの市域、中心市街地でさえ網羅できていない。今税金だけでも

1 億円以上バスに使っているので、これをどんどん進めるのは難しい。違うやり方を考えないといけない。

3つ目が認知症対策です。誰しも必ずいつかは訪れるというもので、例えば成年後見という制度がありますが、認知症になると必ず成年後見が必要になります。それをどういう形でサポートしていくのか、という3つの大きなテーマでやっている。それに対して皆さん方がどう感じているか、違う方法はないか、日常的に困っているような話をお聞かせくださいと言ってまわっています。

そのなかで本当に良い意見だと思ったのが、実際に買い物に行けなくて困っていると、医者に行けなくて困っている人が、地域でわかっているようでわかっていない。例えば民生委員さんは守秘義務があって知っていても教えてもらえない。それをもう少し私たちに教えてもらえたら自治組織や地域でなんとかしてあげられるのに。もっと行政がそういう情報を私たちに教えてもらえたらどうかというものでした。正しくそのとおりで、ただ個人情報というものがあって、むやみやたらに個人情報を教えられない。そこで防災に関しては手上げ方式で、要支援者と呼ばれる方を抽出する作業の真っ最中ですが、それをある程度まとめて地域に渡すなかで、もっと広げて普段の生活介助も地域で関わってもらえるようにしていければ変わってくるのではないかと考えている。可能性はまだまだあると思うので、意見を聞いて委員会にフィードバックできればと考えている。皆さんがこういう問題に危機感を持ち、どうしたら良いか日常的に考えていると感じた。

委員)

地域をまわられてますが、高齢者の方への聞き方は考えてあげて欲しい。子どもの頃この地域の良かったことも聞いてあげて欲しい。ドローンで荷物を運ぶといっても、これだけの市域のなかで、10年後、20年後に地域から出られない人は出てくる。昔は今以上に食生活は豊かだったし、逆に災害があってもいろいろなものを畑で作っているのだから、米がダメでも何か食べるものがあつた。質問の仕方次第で、それぞれの地域の知恵がでてくるかもしれないし、少し若い頃のことを思い出して晴れやかな顔で帰ってこれるかもしれない。

委員)

松阪は子育ての時と、高齢者の地域包括ケアは、両方の視点で進んでいると思う。

子育ての部分も含めて非常に熱心に取り組んでもらっていますし、高齢者の地域包括ケアは、県内でも一番進んでいると思う。医師との連携と自宅と地域の連携がうまく連動しないと絵に描いたもち。徐々に包囲網を広げていただいている。

子育てをして最後に老後になって、自分の夢を見て元気に働ける。老後のなかでケアシステムが稼働していれば、松阪に住んでよかったと思えるのではないかな。システムがどんどん広がって拡充されていったら、松阪は三重県で先進の砦になると思う。

委員)

すべての政策は財政につながる。

決算状況等の推移と中期財政見通しについてはどのような状況か。

市長)

松阪市の財政としては、そう悪くない状況です。

変わった取組として、ここ2~3年短期償還というやり方をしている。今年借金して翌年に返すというもの。借金が増えない。

基本的な考え方に、将来世代も負担をするという考えが借金の制度にはあり、松阪市は一般会計で借金が460億円程度ありますが返すあては全て整っている。人口が減少し一人当たりの借金を増やさないように、貯金の100億円を取り崩しながら、短期償還しながらやっています。大事なものは収支均衡がとれていること。

委員)

公会計と企業会計は違う。企業会計的にそれほど良いと言えない。

流動資産がいくらあるのか固定資産がいくらあるのかなど、行政が発表する資料はバランスシートがないからわからない。

副市長)

財政指標で将来負担比率というのがあり、借金の額が今の予算規模に対して何倍までなら許されるかという比率。それが200%とか300%の数値ですが、松阪市はマイナスで、将来的に交付税やいろいろな財源が入ってくるためすべて返せます。

また、合併特例債では借金の元金も利息も含めた70%が交付税として返ってきており、それを使って短期償還というものをしている。100億円借りた場合、自主財源は30億円で済みます。今年まで集中投資期間として借金をして大型事業をしていますが、これ以上借金は増えないような形で運用している。

委員)

そこが見えるようにしてほしい。

会長)

それでは、これで最後の第17回を閉めさせていただきたいと思います。

事務局)

ありがとうございました。

松阪市政推進会議は、竹上市長のブレーン会議と位置付けており、今年9月に市長選挙が挙行されますので、今回の会議で一旦終了させていただきます。

なお、10月以降の開催は現時点では未定としておりますが、それ以降の開催等につきましては、10月以降にご連絡させていただきます。

以上をもちまして、第17回松阪市政推進会議を終了させていただきます。

ありがとうございました。

《午後4時15分 終了》